

図書だより

第53号
平成24年11月6日
呉工業高等専門学校
図書館
<http://wwwlib.kure-nct.ac.jp>



夏 (撮影：呉高専電気情報工学科5年 本計貴紀)

目次

- ・ 巻頭文 鳥の目と虫の眼 校長 森野 数博 2
- ・ 寄稿 本を読み返すということ 図書館長 笠井 聖二 3
- ・ 読書のすすめ
 - 本に関する回想 人文社会系分野 市崎 一章 4
 - 読書のすすめ 自然科学系分野 北村 光一 5
 - 枠を広げるための読書 電気情報工学分野 外谷 昭洋 6
- ・ 行事報告 平成24年度第1回ブックハンティング 学生会文化・環境委員長 瀬井 涼麻 7
 - ブックハンティング図書紹介
 - 第1回ブックハンティング購入図書リスト
- ・ お知らせ 図書館 10
 - DVD利用回数ランキング, 貸出回数上位ベスト10
 - 平成23年度図書館貸出状況
- ・ 編集後記 11

巻頭文

鳥の目と虫の眼

校長 森野 数博



この夏、信州の諏訪湖畔にある原田泰治美術館を訪れました。原田泰治さんは、消えゆく日本のふるさとの情景とそこに生活する人々の暮らしを、限らない愛情をこめて、細かい点を連ねることで表現している“ナイーブアート(素朴絵)”で知られる風景画家です。「ああ、あの絵か」と思い当たる人もおられることでしょう。1982年から3年間、朝日新聞日曜版に「日本のふるさと」を連載し、一躍、世に知られることとなりました。みなさんはまだ生まれる前の話ですのでご存じないでしょうが、ご両親やそのまたご両親で日曜版を楽しみにしておられた方もおられるのではないかと思います。かくいう私も、そのときからファンになりました。

このような原田さんの絵は、ご自身の境遇から生み出されたそうです。1歳のとき小児麻痺を患い、両足が不自由になりました。父親は、そんな彼を自然のなかで育てたいと思い、田舎の、集落から離れた小高い場所に開拓農民として入植したそうです。原田さんはほとんど動くことができませんので、家の庭先から周囲の風景を眺め、四季折々の移ろいを肌で感じつつ、それに合わせて暮らす麓の集落の人々の生活を眺めたり、かがみこんでは蟻などいろいろな虫を観察したそうです。このような状況の下で、大きな世界観と小さな世界観が融合し、合体してできあがったのが「原田泰治の世界」と称される独自の空間でした。日本各地の美しいふるさととそこで暮らす懐かしい人々を描くあたたかい眼差しの作品は、観る人の心にほのぼのとした温もりと安らぎを与えてくれることから“日本人の心のふるさと”と呼ばれています。そのような“鳥の目と虫の眼”から生まれてきたといえるでしょう。

いま「日本のものづくり」は、新たな局面にさしか

かっています。ひと昔前に比べると、我々の生活はずいぶん便利になりました。何でも、と言っていいくらい、欲しいものが安く簡単に手に入ります。ものが充分でなかった時代、「ものづくり技術者」に求められた資質は、主として特定の専門分野の技術であり、能力でした。機能が優れたものをいかに効率よく低コストでつくるか、それがポイントでした。いまは、そうではなくなってきています。人々が求めるものは、生活に便利なものから、人類に幸せと安定をもたらすもの、たとえば医療でありエネルギーであり環境といった分野のものです。これらの要求に応えるには、単に専門知識を身につけるだけでは十分ではなく、広く地球規模で状況を把握し、考えの異なる人々と共存する視点ももたねばなりません。この点において、文学や芸術やさまざまな社会科学に触れることを欠かすことはできませんし、種々の自然科学系分野の知識も重要です。また、特定の専門分野だけでなく、他の分野の知識を身につけることも不可欠になっています。もちろん、自分の専門とする分野については深く理解し、十分に使いこなすことは必須です。すなわち、これからのものづくり技術者は、広く世界の動きを見渡す“鳥の目”と専門分野を知り尽くす“虫の眼”をもつことが求められているといえるでしょう。

“虫の眼”をもつ訓練はこれまでも行われていますが、“鳥の目”をもつ訓練はまだ十分とはいえないように思います。図書館には、いろいろな分野のさまざまな図書が揃えられています。館内に入り、ぐるっと見回すだけで心持ちが変わります。“鳥の目”を養う上で、図書館はとても有用。「ものづくりの中核技術者」をめざすみなさんには図書館に足を運び、“鳥の目”を養っていただきたい。そして、ものづくりの舞台で「独自の世界」を築いていただきたいと思っています。

寄稿

本を読み返すということ



図書館長 笠井 聖二

皆さん、本を読み返すことがありますか。私は、これまで、本を読み返すことはありませんでしたが、最近、「本を読み返す」ことについての2つの体験をしたので、「本を読み返す」ということについて書いてみたいと思います。

体験の一つは、出張の時です。出張は、移動の交通機関の中で、まとまった時間が取れるので、「積読」の本を読むよい機会です。ある出張に4冊の本を持っていきましたが、その中の1冊が、少し前に読んだ本でした（その本は、強い印象を受けた本でしたが、そのような本でも本のタイトルさえよく覚えていなかったことに、ある意味びっくりです）。他の本もあったのですが、せっかくなので読んでみることにしました。特に、強い印象を持っていた部分を見返してみました。最初に読んだ時とは、ちょっと違った見方をすることができました。最初読んだときは、書いてある内容に対して、強い共感や反発という直接的な気持ちが強かったように思いますが、2回目では、内容に対する一方的な見方ではなく、書いてあることに留まらず、他の事例にも考え、広く考察できたような気がします。最初の時は、盛り上がった気分の勢いで読んでしまい、二回目は、そのような高揚が少ない分、理性的に読めたのかもしれない。

もう一つの体験は、半分ぐらい読んで置いておいた本を、久しぶりに読んだことです。その本には、気になったところに付箋をつけていたので、本を読み進めると合わせ、気分転換のように付箋の部分を読みました。そうすると、付箋を付けた部分よりは、その前後の部分の方が気になるのです。付箋を付けた部分は、著者の所見などを述べている箇所ですが、1回目の読書で、それを知ってしまい新鮮さが薄れ、2回目は、単に知るというのではなく、そのことを考えながら本を読めたという感じです。

本を読むとき、意識しなくても、何かしらの形で脳に刺激が残るはず。一度目の読書では、考えながら本を読んでいるつもりでも、あくまで情報を脳に蓄積しているだけだとは考えられないでしょうか。「考える」ことが、蓄積された情報の結びつきにより実現されるのだとすると、本を一回読むだけだと、その本の本当の内容を理解できていないと言えるのかもしれない。

そう考えると、あまり本を読み返してこなかった私は、非常にもったいなことをしてきたということになります。そういえば、学生時代に読んだ渡部昇一氏の「知的生活の方法」にそのようなことが書いてあったような気がします（この本は、繰り返し読んだはずですが・・・）。

どうか皆さんも、「本を読み返す」という体験を試してみてください。そして、「繰り返し読む」ということもやってみてはいかがでしょうか。

もう20年ぐらい前に買った4コマ漫画の本を、繰り返し読んでいます。子供も何度も読んで、ボロボロです。内容を覚えているのですが、子供は、それでも、ケラケラと笑うことがあります。この場合は、マンガの雰囲気・リズムを思い出しながら、それらを楽しんでいるのかもしれない。ちなみに、この4コマ漫画は今でもシリーズとして出版されており、40巻ぐらいになっているようです。久しぶりに一冊買って、繰り返し読んでみました。

読書のすすめ

本に関する回想

人文社会系分野
市崎 一章

「本を読みなさい」——物心つき始めたころから耳に残っている、学校の先生の決まり文句である。先生との連絡帳で一ヶ月でどれだけの本を読んだのか、自己申告するようになっていたのだろう、「Nさんは今月も20冊、すごいですねー、皆さんも見習うように」なんて言われた記憶がおぼろげにある。生来、まったく落ち着きがなく、現代風という超 outdoor 派の私にとって、じっと座って本を読んで、何が面白いのか、そんなの爺さんの囲碁や将棋と同じではないかくらいの意識しかなかった。ただ、Nさんが通う市立図書館は自宅の近所にあったので、一度試しにと、訪れたことがある。外観も古臭い建物であったが、中に入ると薄暗く、なおさら古書特有のむっとする臭いが強烈であった。カウンターに口数少ない職員が一人だけで、館内には1-2人の来場者だけだったろうか、書架にずらりと並んだ褐色に焼けた文庫本が、西の窓から差し込んでくる夕陽に照らされている光景が、なぜか鮮明に印象に残っている。ただ、結局開いたのは、「片翼帰還の榎村機」というタイトルのある白黒写真の戦記物グラビアであった。実は、私の里は香川県の善通寺という元陸軍の部隊があった（現在は陸上自衛隊駐屯地となっている）町で、実家の真向いが（銃撃戦の末、大きなダメージを受けながらも奇跡の片翼飛行で帰還し、時の英雄となった）榎村氏の実家であった。結局、榎村氏はその後再出撃して帰らぬ人となったが、幼い頃より「榎村機」という名前は地元の英雄として何度も耳にしており、グラビアを開けたのもその名称が脳裏に焼き付いていたからだろう。今春、二十余年を過ごした九州の宮崎を離れ、海軍の町、呉にある高専に着任したのも、陸/海軍のご縁なのかもしれない。

グラビアでは「本」とは言えないかもしれないので、小学校時代に読んだ本を挙げるなら『モルグ街の殺人事件』が印象に残っている。大学で英文学部に入学し、英文学部生必読の書としてオリエンテーション時に勧められた一覧の中に、Edgar Allan Poe という名前があった。お蔭で、日本の推理小説家の江戸川乱歩はその名前をもじったこともわかった

し、数年後に米国（Arkansas の大学）に留学した際には、Virginia 州にある Poe Museum に訪れる機会にも恵まれた。「モルグ街」や「陥穽と振り子」といった、こんなに恐ろしい作品をよく書けるなあーという幼い頃に受けた強烈な想いは、前職場で指導していた英米文学史の講義で、Poe の作品を解説する際の熱弁へと具現化した。

日本の大学では英語を専攻したが、半年/通年の講義で消化するテキストの量は、文学関連の科目であってもわずかに一冊に過ぎなかった。留学の一年間で取得した単位は帰国後、卒業単位として認められるというし、3ヶ月もの長い夏季休暇を無為に過ごすのはもったいなかったので、留学先とは別に、憧れの街 New York City の大学で夏季講習を受けることにした。Brooklyn にある寮に入り、コミュニケーション科目に加えて文学を2科目登録した。すると周囲の米国人から Crazy! と言われる始末。何がまずいのか、それは初回講義で判明した。きつい方の文学科目では、わずか6週間の講義でこれだけ読むようにと、日本の文庫本の数倍厚いテキストを12冊積み上げられたのである。そんな日本ではありえないと指導教授に泣きついたところ、外国人ということで半分に減らしてくれたが、それからが地獄だった。当時は1ドル=220円の時代。高額な学費も既に払い込んだし、もとを（=単位を）取らねば大損である。朝昼晩と3食が「食パン+ポロニアハム+ウォータークーラーの水」という日も少なくなかった。早読のスキルもなく、連日、辞書を頼りに体力勝負である。真夏の Brooklyn、最高気温は43度、なぜか寮のエアコンは効かず、朝起きると灼熱からか自然に鼻血が垂れる始末。そしてよいよ本番の期末試験。その時点でも課された量の1/3しか読めておらず、白紙のままでは確実に不可となる、何でもいから何か書かぬばと、適当に何がしかを書いたのを覚えている。そんな無茶苦茶な若者を憐れんでか、寛大な教授はC+をくれた。

そもそも読書はそれほど好きではなかったためか、結局、専門は文学ではなく語学（音声学）になったものの、仕事で研究書は読まざるを得なくなった。ただ、この分野の研究書は、データを集めて分析したものが多く、いわゆる科学技術論文で味もそっけもない。よってなおさら、たまに仕事以外の本を読む時、日本語にせよ英語にせよ文学性豊かな表現を目にする度に、自分の筆力の乏しさを嘆きつつ、そんな文章を書ける筆者には強い憧れと羨望を抱くのである。

読書のすすめ

自然科学系分野

北村 光一

近年、インターネットや携帯等情報メディアの発達・普及によって「読書離れ」や「活字離れ」が進み、社会問題となっている。私は、近頃、一般読書を読む時間がなかなか確保できなくなり、読書といっても情報や数学等の専門書しか読んでいません。皆さんに是非読んでいただきたい書物を2冊紹介したいと思います。

一冊目は、岩波文庫から出版されている『読書のすすめ』（1997年出版して2005年に第11刷発行）である。この書物は、37名の筆者の方々の個性と体験をもとに多様なテーマで短編にまとめられており、読者として若者が想定され、学生にとって読みやすい。「読むことと想像すること」（池内了氏）、「青春の読書と小説」（加賀乙彦氏）、「音読」（串田孫一氏）、「読書と友だち」（坂本義和氏）、「読書のたのしみ」（田辺聖子氏）、「読書による理解」（中村元氏）、「＜面白い＞と＜わかる＞」（中村雄二郎氏）、「読書と私の人間形成」（西澤潤一氏）、「本の読み方」（養老孟司氏）等、作者からの熱いメッセージは世代の別を越えて読者の心に響く。その中から特に印象に残った文章を一部紹介する。

「読書には、大きく分けて、二種類の読書がある。一つは、何かを得るための読書。もう一つは、娯楽としての読書。つまり教養主義あるいは情報主義的読書と面白主義的読書。だが、その二種類の読書を合わせ、しかも越える、もう一つの読書が、ある。……」

作者にとって、大切な三つ目の読書とは何か？是非、坪内祐三氏の「夏の読書」を読んでみてください。

「本の読み方には、二通りある。一つは、本に主観的に埋没すること、もう一つは、書かれた内容を、なんらかの客観的なデータとして扱うことである。…第一の読み方は、ごくふつうの読み方であり、「感想文」的な読み方といってもいいし、「文科」的な読み方といってもいい

い。…むずかしい本は、どちらかと言えば、二番目の読み方になる。」「この二つの読み方が合体すると、理想的な読み方になるかもしれない。」作者より薦められた理想的な読み方とは？「本の読み方」を是非ご一読下さい。

「若いときの読書が、一番楽しく、また自分の人生観の根本を作ってくれた」と語っている加賀乙彦氏、彼の青春時代、どんな本を読んだのか、どういう基準で本を選ぶのか？「青春の読書と小説」をご一読下さい。

「読書とは対話である。読書の楽しみは、対話の相手となる友だちを、いくらでも広げていけることにある。まったく会ったことのない人、まったく見たこともない社会や時代の人と、対話ができることは素晴らしい。読書では、大思想家、大学者、大文豪でも、いわば敬称ぬきで、対等に語りかけることができる。私にとって、読書とはいい友だちを作ることだった。」（「読書と友だち」より）。

学生の皆さん、この機会に是非一度、それぞれの筆者の方々に会って対話してみませんか。

また、私は数学科の教員として皆さんに是非読んでいただきたい書物は、数学者である遠山啓 監訳『数学とはどんな学問か』（ブルーバックス、1974）である。学生から「先生、数学とは何か」という質問をよく耳にする。この問に対して、この書物は、数学という学問の性格は何か、それはどうして発展して生まれたのか、数学はどのような人々により創り出されたのか、それはどこで展開され活用されているのか、等々に答えてくれる。また、数学嫌いの学生にも数式を最小限にとどめており、大変読みやすいことが特徴である。是非一度読んでみてはいかがでしょう。最後に、皆さんに対して、以下の名言を贈りたい。

*「子供の頃、たくさんの夢を見た。今思うと、たくさん本を読む機会に恵まれたから、夢が膨らんだのだと思う。」（アメリカマイクロソフト社創業者 ビル・ゲイツ）

*「読書の方法を知っている人はすべて、自分自身を拡大し、存在できる道を増やし、人生を有意義で、面白く、最大限に活かす力を持っている。」（イギリス作家 オルダス・ハクスレー）

枠を広げるための読書

電気情報工学分野

外谷 昭洋

高専生は世間から“高専生だから〇〇”と枠にはめられてみられる時がある。また、自分自身をそうした枠にはめて考える傾向があり、それを嫌っていたので、その枠を変えたり広げたりするために、今までに様々なことに挑戦し、それとあわせて様々な本を読んだ。今回はこの場を借りて、私の枠を広げてくれた本をおススメの本として紹介したいと思う。

○世界観の枠を広げてくれた本 — 同世代の若者を描いた小説

私は高専時代に“井の中の蛙”であった。要するに、世界観についての視野が狭かったのである。その視野を広げてくれたものの一つは、同世代の奮闘を描いた小説だったと思っている。私は読書家というほどではないが、ジャンルを問わずいろいろな本を読んできた。そのなかでもフィクション作家である石田衣良氏は、高専時代に私の世界観を広げて、知らない世界に飛び込む勇気をくれた作家だと思っている。私は彼が描く、日々挑戦しながら生きる若者たちの姿に自分を重ね合わせて、自分の足りないところを感じ、未知の世界に飛び込む勇気や向上心を植えつけられた。また、彼が描くさまざまな人の姿を見ながら、人の多様性や当時の自分の知らない世界についても知ることが出来た。そのおかげもあり、進学や留学など、それまでの自分なら出来なかった様々なことに挑戦して、自分の視野を広げることが出来たように思う。

○英語力の枠(限界)を広げてくれた本 — 英語多読の指南書

多くの高専生は英語が苦手である。世間的にも、高専生は英語が苦手と思われている。私も例にもれず高専時代は英語に苦戦していたのだが、図書館で手に取った「快読100万語!ペーパーバックへの道」に出会い、英語に対する考え方や接し方が変わった。この本では、「オックスフォード」シリーズや「ペンギンリーダー」シリーズと

いった英語の児童書をひたすら読み、英語に慣れながらレベルアップを行う多読という学習法を薦めている。英語が難しいと感じていた当時の私はこの本に倣い、中学英語くらいの文章の児童書から読み始めて、英語に対するとっつきにくさや苦手意識を解消することが出来た。本校の図書館にも多読用の図書が多数置いてあるので、みなさんも是非挑戦してほしいと思っている。

○社会人になるために枠を広げてくれた本 — 社長が書いた本

社会を知る上で社会の先輩でありトップランナーである社長の書いた本はおすすめである。最近読んだ本は居酒屋チェーンワタミの社長、渡邊美樹氏の書いた本であるが、働く意味を感じるいいきっかけになった本である。工業系で言えば、パナソニックの松下幸之助氏や京セラの稲盛和夫氏について書かれた本なども読んだことがあり、それぞれの企業精神や心構えを知ることが出来た。将来、就職するにあたって、会社でどういう気持ちで働くのか、また、企業は自分たちに何を求めているのかを学ぶ良い機会になるので、社会人になる前に、こういった本をぜひ読んでほしいと思う。

最後に、私はある面接のときに、「私は高専卒だから英語は苦手なんです」と緊張のあまり言ってしまったことがある。やはり、内心思っていることはいざという時に口をついて出てくるものである。これを肝に銘じて、「私は〇〇だから、あれもこれでもできますよ」と心のそこから自信を持って言えるように、これからも本を読んでいこうと思う。また、読んでくれた学生一人一人も、素敵な本と出会って枠を広げて、いい意味で“高専生らしくない高専生”を目指してもらいたいと願っている。

「池袋ウエストゲートパーク」 石田 衣良 (著)

ISBN-10: 4163179909

「快読100万語!ペーパーバックへの道」 酒井 邦秀 (著)

ISBN-10: 4480087044

「Sherlock Holmes Short Stories」 Arthur Conan, Sir Doyle, Clare West (著)

ISBN-10: 0194229858

「E. T. THE EXTRA-TERRESTRIAL PGRN2」 Addison-Wesley (著)

ISBN-10: 0582517478

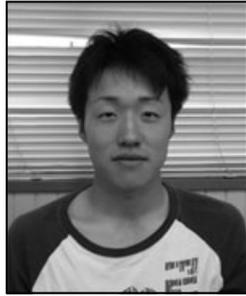
「きみはなぜ働くか」 渡邊 美樹 (著)

ISBN-10: 4532195373

行事報告 平成24年度第1回ブックハンティング

学生会 文化・環境委員長

瀬井 涼麻



8月2日の木曜日に、担当の先生と図書館の職員の方、文化・環境副委員長、それと4、5年生各クラス代表2名の学生で広島駅前にある『ジュンク堂書店』にブックハンティングに行ってきました。なんとといってもその日は学生が学校生活の中で一番嫌がる前期末試験が終わった日だったので、来ない学生もいるかなと思ったのですが、寝不足等で疲れているにもかかわらず全員参加してくれたのでスムーズにブックハンティングを行うことが出来たと思います。今回のブックハンティングの趣旨は学生たちが自ら読みたい本を選び購

入し呉高専の図書館に並べることで、学生たちがさらに図書館を利用しやすくなるのではないかと、という企画だったと思います。とても良い企画だと思います。自分自身もそうですが、ゲームやネットが普及する中で本を読む、ということが少なくなっている学生達にはちょっとでも本と向き合える良い機会になったのではないのでしょうか。実際に、『ジュンク堂書店』に到着すると、意外にもみんな本を真剣に選んでいました。呉高専はその名の通り専門的なことをよく学ぶ学校であるので、学生たちもそれに合わせ建築の専門書や、機械の専門書、資格の本、などが多く選ばれていたように思えました。もちろん、文庫本、小説等も選ばれていました。結果的にはみんな楽しんでブックハンティングを行えたのではないのでしょうか。後期は、1、2、3年生が行くみたいなので低学年の学生たちは楽しみにしておいてよいと思いますよ。興味がある人、ぜひ参加してみてください。

ブックハンティング図書紹介

ラールス 地図で見る国際関係：現代の地政学

Y・N

私が、この本を選んだ理由は以下の2つです。まず1つ目は、読みやすさです。タイトルにもある通りに、この本は1ページの半分に地図、もう半分に関係する説明というレイアウトとなっています。高専では地理の授業がありますが、国際情勢に関するニュースを見ながら、そこがどういう地域にあってどういう地形を有するのかを瞬時に理解できるレベルに達するには難しいと思います。その点、この本ではカラー刷りの地図を見ながら説明を読み進めていけるので、なぜそのような情勢になったかが分かりやすいです。次に2つ目は、情報量の多さです。この本は388ページあり、現在の世界情勢をくまなくといったら語弊がありますが、かなりの範囲をカバーしています。最近、池上彰さんの学べるニュースという番組で世界情勢について解説しているのを目にしましたが、そこで解説しきれなかった地域がまだまだあるということに、この本を読めば気づくはず。最近、私の周囲の人を見ていると、尖閣、北方領土などの日本周辺や、9.11テロ等の非常に危険性が高いニュースではその地域に関心を持つ

ものの、それ以外では全くと言っていいほど関心を持っていないように感じます。世界中の領土問題や人権問題を見てみれば、これから日本が進むべき道を考える上で、非常に大きく役に立つのではないのでしょうか。以上の2つの理由から、私はこの本をブックハンティングにて選びました。

一球の心理学

K・R

自分は今まで野球部でずっと野球をしてきたのですが、現役の時にこの本を読んでいたらもっといい結果が出せたのではないかなと思ひ、この本を選びました。現役野球部の子にぜひ読んでもらいたい一冊です。

面白くて眠れなくなる化学

T・M

「コーラを飲んだら歯や骨が溶ける」「しょう油をがぶ飲みすると死ぬ」などという話は多くの方が聞いたことがあるだろう。ホントのところはどうか？！一つ一つの話が短く一気に読んでしまう一冊です！

20歳のときに知っておきたかったこと

H・R

20歳になり来年就職を控えています、社会に出る事に大きな不安を抱えています。少しでも20歳としての自信を持ちたいと思いこの本に興味を持ちました。

ここはボツコニアン

M・M

作者は「模倣犯」などで知られる宮部みゆきです。雰囲気が取っ付きやすそうなので、彼女の作品を読んだことがない人でも読むことができます。このような意外性のある本があることを知ってもらいたくて選びました。

第1回ブックハンティング購入図書リスト

書名	著者	出版社	出版年
萌えビジネスに学ぶ「顧客を熱中させる」技術	藤原実	中経出版	2012
学校で教えない“お金”を生む発想法	岡野雅行	朝日新聞出版	2012
「上から目線」の扱い方	榎本博明	アスコム	2012
線型代数演習(基礎数学(4))	齋藤正彦	東京大学出版会	1985
スバラシク実力がつくと評判のフーリエ解析キャンパス・ゼミ	馬場敬之/高杉豊	マセマ出版社	2012
スバラシク実力がつくと評判の力学キャンパス・ゼミ	馬場敬之/高杉豊	マセマ出版社	2012
入門力学系	森真・水谷正大	東京図書	2009
いまさら聞けない計算力学の常識		丸善出版	2008
ちょっとわかればこんなに役に立つ 中学・高校物理のほんとうの使い道	京極一樹	実業之日本社	2011
相対性理論がわかる	高橋真聡	技術評論社	2011
超光速ニュートリノとタイムマシン 世紀の大発見がもたらす未来	竹内薫	徳間書店	2011
宇宙・物質のはじまりがわかる量子力学(朝日おとなの学びなおしー物理学)	広瀬立成	朝日新聞出版	2012
泣ける宇宙		イースト・プレス	2012
星空ウォッチング	沼澤茂美/脇屋奈々代	新星出版社	2008
面白くて眠れなくなる化学	左巻健男	PHP研究所	2012
巨大地震 リアルシミュレーション	久保範明	永岡書店	2011
もし富士山が噴火したら	鎌田浩毅/高世えり子	東洋経済新報社	2012
9つの性格でわかるあなたの天職	エリザベス・ウエイゲル 他	メトロポリタンプレス	2012
学歴革命 秋田発 国際教養大学の挑戦	中嶋嶺雄	ベストセラーズ	2012
20歳のときに知っておきたかったこと スタンフォード大学集中講義	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2010
ビジュアル英文解釈 (Part2)	伊藤和夫	駿台文庫	1988
ビジュアル英文解釈 (Part1)	伊藤和夫	駿台文庫	1987
僕らがサッカーボーイズだった頃 プロサッカー選手のジュニア時代	元川悦子	カンゼン	2012
一球の心理学—勝敗を分ける微妙なアヤを読み解く	マイク・スタドラ	ダイヤモンド社	2008
大人の自転車ツーリング—自転車、旅を、もっともっと楽しむために	門岡淳	ラピュータ	2010
広島ルール		中経出版	2012
一音入魂!全日本吹奏楽コンクール名曲・名演50	富樫鉄火 他	河出書房新社	2007
ここはボツコニアン	宮部みゆき	集英社	2012
僕は長い昼と長い夜を過ごす (ハヤカワ文庫JA)	小路幸也	早川書房	2012
砂漠 (新潮文庫)	伊坂幸太郎	新潮社	2010
おおかみこどもの雨と雪 (角川文庫)	細田守	角川書店	2012
ノーブルチルドレンの断罪 (メディアワークス文庫)	綾崎隼	アスキー・メディアワークス	2012
僕は友達が少ない 2 (MF文庫J)	平坂読	メディアファクトリー	2009
僕は友達が少ない (MF文庫J)	平坂読	メディアファクトリー	2009
ラブ・ケミストリー (宝島社文庫)	喜多喜久	宝島社	2012
Another(下) (角川文庫)	綾辻行人	角川書店	2011
Another(上) (角川文庫)	綾辻行人	角川書店	2011
エア・パワー—その理論と実践	石津朋之 他	芙蓉書房出版	2005
<ヴィジュアル版>ラールズ 地図で見る国際関係: 現代の地政学	イヴ・ラコスト	原書房	2011

書名	著者	出版社	出版年
犯罪捜査の心理学—プロファイリングで犯人に迫る	越智啓太	化学同人	2008
ヒューマンエラー 第2版	小松原明哲	丸善	2008
イノベーションのジレンマ—技術革新が巨大企業を滅ぼすとき	クレイトン・クリステンセン	翔泳社	2001
イノベーションへの解—利益ある成長に向けて	クレイトン・クリステンセン 他	翔泳社	2003
イノベーションのDNA —破壊的イノベータの5つのスキル	クレイトン・クリステンセン 他	翔泳社	2012
あたりまえだけどなかなかできない 仕事のルール	浜口直太	明日香出版社	2005
世界の夢の本屋さん		エクスナレッジ	2011
東京スカイツリー UNDER CONSTRUCTION	撮影:工藤政志	角川書店	2012
ヒロシマツツケイ'12—広島平和祈念卒業設計賞作品集 2012		総合資格	2012
日建設計 (NA建築家シリーズ)		日経BP社	2012
建築家シリーズ 隈研吾 (NA建築家シリーズ)		日経BP社	2010
安藤忠雄 建築手法		エーディーエーエディターキョー	2011
トウキョウ建築コレクション(2012)—全国修士設計・論文・プロジェクト展		建築資料研究社	2012
世界で一番やさしいRC・S造 設計編	佐藤秀	エクスナレッジ	2009
ストーリーで面白いほど頭に入る木構造	たにたくみ:漫画/ 山辺豊彦:監修	エクスナレッジ	2012
新 建築土木構造マニュアル	清田清司/高須治男	理工学社	2004
わかりやすい鉄骨の構造設計		技報堂出版	2009
建築材料力学	榎並昭	彰国社	1989
小さな家、可愛い家 世界の一流建築家による傑作タインニー・ハウス34軒	ミミ・ザイガー	二見書房	2012
日本を守る家～信念を懸けた地震保証への挑戦	中嶋文雄	防災住宅研究所	2011
環境科学(専門基礎ライブラリー)	渡辺征夫	実教出版	2006
室内環境学概論		東京電機大学出版局	2010
新版 知っておきたい 壁面緑化のQ&A		鹿島出版会	2012
新版 知っておきたい 屋上緑化のQ&A		鹿島出版会	2012
水理学入門(基礎シリーズ)	岩佐義朗:監修	実教出版	1998
俺たちに不可能はない!		中経出版	2012
電験三種完全解答 2012年版		オーム社	2012
はじめての3次元CAD SolidWorksの基礎	木村昇	共立出版	2009
エンドミルのすべて(でか版技能ブックス(2))		大河出版	1988
知ってなアカン! 機械技術者 モノづくり現場の「構想設計力」入門	古川功/佐野義幸他	日刊工業新聞社	2012
溶接・接合工学概論	佐藤邦彦	理工学社	2011
技能検定1・2級 機械製図(学科)頻出精選問題50	平田宏一	技術評論社	2010
機械力学(機械系大学講義シリーズ 10)	三輪修三/坂田勝	コロナ社	1984
理工学講座 精密工学	中沢弘	東京電機大学出版局	2011
絵とき 鋼構造の設計	田島富男/徳山昭	オーム社	2003
機械の疲労強度設計法	大滝英征	日刊工業新聞社	2007
機械加工心得ノート—熟練加工技術者となるために	城谷俊一	日刊工業新聞社	1992
ねじの基礎	渡辺彬/武田定彦	パワー社	1990
図解雑学 材料力学	山口昭夫:監修	ナツメ社	2010
めっちゃ、メカメカ!!リンク機構99→∞—機構アイデア発想のネタ帳	山田学	日刊工業新聞社	2009
プラズマ理工学基礎	畠山力三/飯塚哲/金子俊郎	朝倉書店	2012
最新MATLABハンドブック	小林一行	秀和システム	2011
基礎センサ工学	電気学会	電気学会	1990
電気技術者のための失敗100選	大島輝夫	オーム社	2010
第3級HAM解説つき問題集 2012/2013年版:アマチュア無線技士国家試験用	野口幸雄	CQ出版	2012
OPアンプによるフィルタ回路の設計—OPアンプ大全(第3巻)	アナログ・デバイズ	CQ出版	2005
電気回路通論—電気・情報系の基礎を身につける	小林幸夫	数理工学社	2011
例解 アナログ電子回路	田中賢一	共立出版	2011
わかりやすいオーディオの基礎知識	加銅鉄平	オーム社	2001
まるごと覚える乙種第4類危険物取扱者ポイントレッスン		新星出版社	2009
これだけマスター 二級ボイラー技士試験	南雲健治	オーム社	2010



第1回ブックハンティングのようす

【表紙】 夏

撮影場所が校内という事で、校内をウロウロしていると、野球ボールが転がっているのを見つけました。すぐ近くで呉高专と広島商船の野球の練習試合をしていたので、野球部員をバックにボールに焦点をあてて撮りました。野球ボールと部員を撮る事で「夏」を表現しています。

(撮影：呉高专電気情報工学科 5年 本計貴紀)

お知らせ

DVD利用回数ランキング

貸出回数上位ベスト10

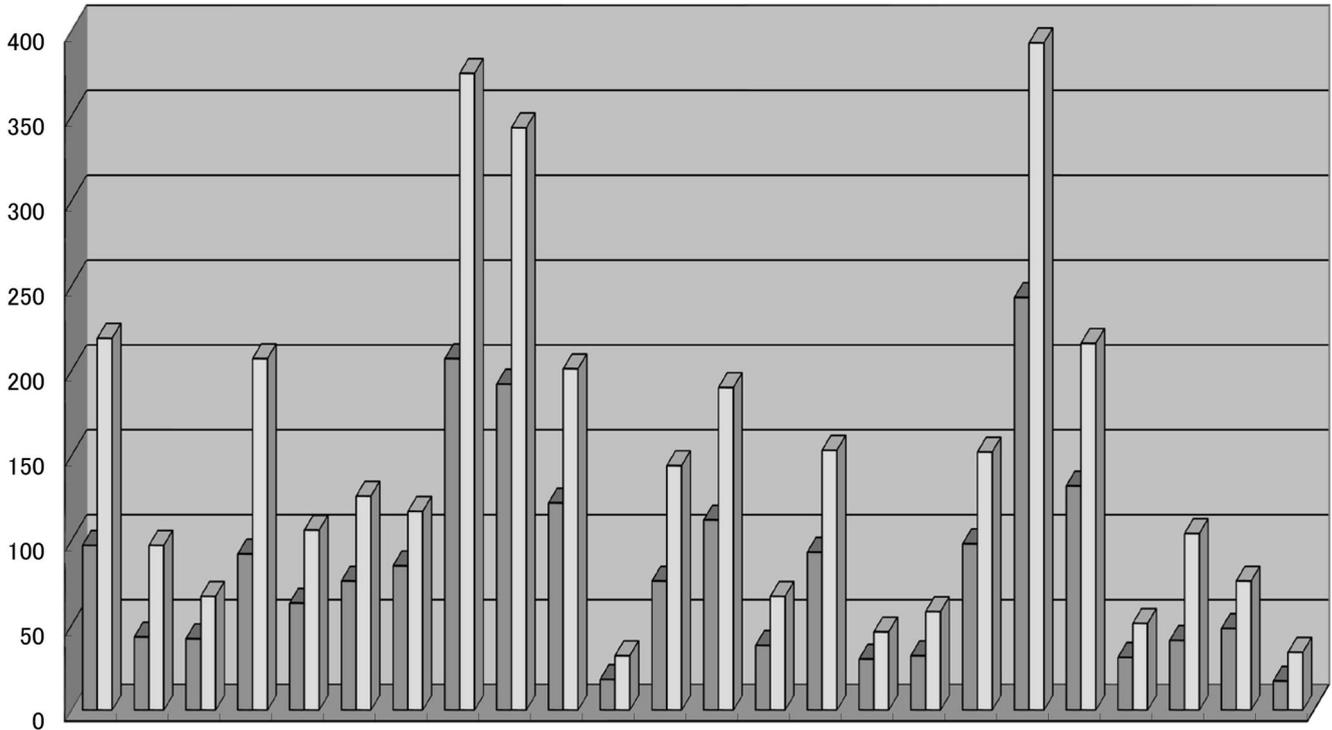
ランク	題名
1	ハンニバル
1	羊たちの沈黙
1	ハムナプトラ～失われた砂漠の都
	ピタゴラ装置 1
	ピタゴラ装置 2
	sixty nine
	ワイルドスピード
	隠し砦の三悪人
	時をかける少女
	千と千尋の神隠し

順位	書名
1位	TOEICテスト新公式問題集〈Vol. 4〉
2位	SPIテストセンター問題集[完全版] 2010年度版
3位	編入数学徹底研究：大学編入試験対策
4位	大学編入試験問題数学/徹底演習(第2版)
5位	初挑戦のTOEIC TEST470点突破トレーニング
6位	新TOEIC TEST「正解」一直線
7位	プラチナデータ
8位	TOEICテスト新公式問題集
9位	TOEIC Bridge公式ガイド&問題集
10位	大学編入試験問題数学/徹底演習

(調査対象期間：平成23年10月1日～平成24年3月31日)

・平成23年度 図書館貸出状況（クラス別）

■貸出人数
□貸出冊数



学科学年																					専攻科機電		専攻科建設	
	M1	M2	M3	M4	M5	E1	E2	E3	E4	E5	C1	C2	C3	C4	C5	A1	A2	A3	A4	A5	ME1	ME2	CA1	CA2
貸出人数	97	43	42	92	63	76	85	207	192	122	18	76	112	38	93	30	32	98	243	132	31	41	48	17
貸出冊数	219	97	67	207	106	126	117	375	343	201	32	144	190	67	153	46	58	152	393	216	51	104	76	34



編集後記

今回は第1回ブックハンティング購入図書リストを掲載してみました。
みなさんの読みたい本はありましたか？リストだけではよく分からない人、次回のブックハンティングは11月30日です。是非参加してみてください。
この「図書だより」が発行される時期はちょうど読書週間にあたります。みなさん一人一人の“ホントノキズナ”が深まりますように。
最後に、今号の発刊にあたり、ご多忙にも関わらず原稿を執筆して下さいました方々にお礼申し上げます。